

とべ動物園まじめ行動計画

第 1 期

平成 3 1 年 4 月

愛媛県



目 次

- 1．計画策定趣旨
- 2．基本方針（報告書より）
- 3．取り組み方針
- 4．分野別計画
- 5．ソフト・ハード別施策
 - ・施設整備位置図
- 6．年次計画

1. 計画策定趣旨

【目的】

動物の高齢化や個体数の減少、施設の老朽化、人口減少や少子高齢化などの問題が顕在化する中、今後の将来を見据えた持続可能な動物園を目指し、「とべ動物園魅力向上戦略検討委員会」の議論を踏まえて、県内有数の集客観光施設としての魅力向上や、環境学習・情操教育の場の実現に向け、ハード・ソフト両面から魅力向上に向けた方策を報告書として平成30年3月に取りまとめたところである。

この報告書は、とべ動物園の魅力向上に向けた基本となる計画であるが、実行にあたっては、来園者ニーズや社会情勢など動物園を取り巻く状況を見極めながら、PDCAサイクルを徹底し、柔軟かつ臨機にに取り組む必要があるため、この報告書の内容を踏まえた実効性のある短期の事業計画を策定し第1期の行動計画として取り組む。

なお、事業実施にあたっては、本県の統一コンセプト「まじめ」に沿って施策を展開することにより、発信する情報の訴求力を高めていく。

【事業計画】

期間：(第1期) 令和元年度～令和3年度（3カ年）

2. 基本方針（報告書より）

目標：野生動物の保全や環境教育に取り組むとともに、何度も来たくなる魅力あふれる動物園を目指す。

将来にわたり、公立動物園として生物多様性確保の基地としての役割や、環境教育の拠点としての役割を果たすとともに、独自性にあふれた動物園に人が集いたくさんの物に興味を持てる持続可能な動物園を目指すために上記の目標を設定する。

基本方針1. とべ動物園の強みを活かした（独自性のある）動物園の実現

とべ動物園の立地状況や周辺環境、とべ動物園の持つ繁殖技術等のとべ動物園の持つ他にはない独自性を活かした動物園の実現を目指す。

基本方針2. 人が集い活力のある動物園の実現

対象者を広くとらえ、それぞれの人が自分に合った楽しみ方ができるように工夫を行うことで繰り返し訪れ笑顔があふれ活力のある動物園の実現を目指す。

基本方針 3. 動物と自然の関わりについて興味を抱かせる動物園の実現

動物への感性を育み、自然を大切にする心を養うことにより動物と自然の関わりについて興味を抱かせる動物園の実現を目指す。

基本方針 4. 持続可能な動物園の実現

今後の将来を見据え経営的な視点に立ち持続可能な動物園の実現を目指す。

3. 取り組み方針

(1) 統一コンセプト『まじめ』に沿った新しい切り口での情報発信

県では、発信情報の訴求力を高め、全国における本県の認知度をさらに向上させるため、県外の人から見た県民性に着目して、愛媛を強く印象付けるための統一コンセプトを「まじめ」とし、新たなPR戦略「まじめえひめプロジェクト」を進めている。

とべ動物園は、環境教育や種の保存に非常に『まじめ』に取り組んできた結果、中四国において、来園者数で1, 2位を争うなど高い評価を得ているものの、逆に『まじめ』ゆえに魅力を発信することが苦手で十分に伝えられていないのでは？と考え、「まじめえひめプロジェクト」の取組みの一つとして『まじめ』をコンセプトとした新しい切り口での情報発信を行い、とべ動物園の魅力向上に取り組む。

(2) 何度も来たくなるよう、良好な「とべ動物園ブランド」の構築

報告書に記載されている4つの基本方針に基づく17項目の取り組み項目を、①早期に着手する取り組み、②中長期的な取り組み、③長期的に継続して実施する取り組みの3つに分類。

①早期に着手する取り組み

- 新たなターゲットに向けた取り組み
- 魅力的なイベントの創出
- 効果的な情報発信
- 広報・情報提供の充実

②中長期的な取り組み

- 安全・快適に観覧できる施設の整備
- 動物の生息環境整備
- 学習的・体験的な機能の充実
- 視点を考慮した施設の整備

③長期的に継続して実施する取り組み

- 地理的特性を活かした施設連携
- 地理的特性を活かした県内の観光地や地元との連携
- とべの繁殖技術等を活かした動物の導入
- 海外の動物園との連携

- 希少種の保存に向けた取り組み
- 資本の強化
- 持続可能な運営体制の構築
- 飼育動物の安定的な確保
- 経営改善

第1期は幅広くとべ動物園を知ってもらい訪れてもらうことに重点を置き、また、近年増加している海外からの観光客や、来園者数の少ない若者も新たなターゲットとして取り組むこととし、話題性がありニュース化して情報発信でき、第1期に実現できる施策を選択し集中して取り組み、成果指標の達成を目指し、第2期、第3期へとつなげる。

【重点戦略】

- ①集中的かつ積極的な戦略的情報発信、広告宣伝、話題性のあるイベントなどにより、認知度を高める。
- ②人気動物の導入や魅力的な話題性のある観覧環境の整備により、ブランド資産を増進する。

【目標設定（R3年度）】

○年間入園者数

第1期、第2期、第3期と継続して取り組み、10年後のR10年度に60万人を目指す（中四国において確実な1位、全国においてトップ20位入りを目指す）。
そのために、第1期（R元～R3）で50万人を確実に超えるように取り組む。

○入園者満足度

アンケート調査による入園者満足度調査を行い、80%以上を目標とする。

○滞在時間の向上

動物園での滞在時間の1割アップを目指す。

○海外からの観光客を対象としたツアー

年間3本以上のツアーが実施されるよう働きかける。

○動物満足度

動物の行動や表情を観察することにより、動物の満足度が向上したかどうか調査等を行い、総合的に判定する。

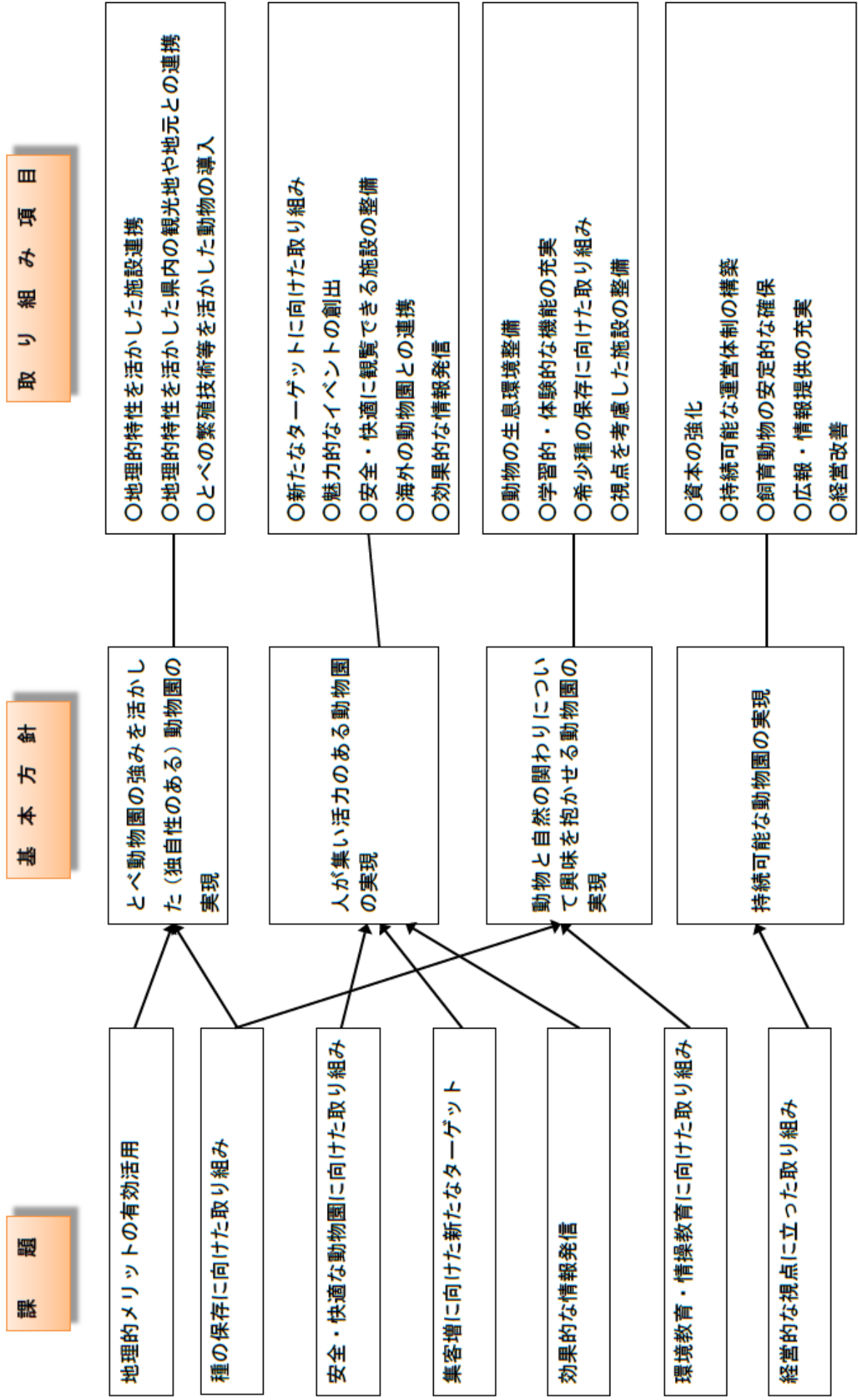
○動物の個体数の維持

1年間に40頭以上の繁殖に努める。

○動物の働き方改革

動物が快適に過ごせるよう、展示室にいる時間や休息時間をきちんと守る。
夜の動物園開催時は、動物に代休を与える。

目標：野生動物の保全や環境教育に取り組むとともに、何度も来たくなる魅力あふれる動物園を目指す。



■施策一覧

実施項目	実施時期		実施内容
	短期 (昭和55年以内)	中・長期 (昭和55年以降)	
とべ動物園の強みを活かした(独自性のある)動物園の実現			
地理的特性を活かした施設連携			
県内類似施設との年間共通パスポート等の発行	○	○	料金等類似施設と連携し年間共通パスポート等を発行
運動公園、えひめこどもの城と連携し共同イベントの開催	○	○	共同イベントの開催によりエリアとしての相乗効果を得る
えひめこどもの城との円滑な移動手段の確保	○	○	園路の整備や手軽に利用できる移動手段の整備
地理的特性を活かした県内の観光地や地元との連携			
動物園と県内の観光施設(道後温泉や砥部焼の里等)との相互誘致	○	○	無料送迎。割引サービス等のシステムづくり
地元産業(砥部焼等)を活かしたグッズの開発	○	○	ご当地ならではのグッズ開発
砥部町で滞在観光できる環境の整備		○	砥部町での宿泊環境等の充実を図る
とべの繁殖技術等を活かした動物の導入			
とべの繁殖技術等を活かした希少種、絶滅危惧種の繁殖	○	○	とべの繁殖技術等を活かした希少種、絶滅危惧種の繁殖
飼育技術の確立や調査研究機能の強化	○	○	他の動物園等との人材交流や研究会等への積極的参加
人が集い活力のある動物園の実現			
新たなターゲットに向けた取り組み			
海外からの観光客をターゲットとした取り組み	○	○	ツアー等の企画、同時通訳の確保、動物園内の多言語表記等
高齢者をターゲットとした取り組み	○	○	高齢者施設への営業、パスポートのPR、祖父母と孫という観点での取り組み、乗り物整備等
中高生をターゲットとした取り組み	○	○	修学旅行の誘致の拡大や専門的な研究会・学習会を実施する等
施設向けの企業パスポートによる平日の団体誘致(週末は家族や個人)	○	○	小、中学校、高齢者施設などの団体に営業を行い平日の誘致に努める
魅力的なイベントの創出			
既存イベントの改善(平日のイベントを増やす等)	○	○	話題性のあるイベントの開発や既存イベント強化を行う等
閑散期(冬場や雨の日等)の集客を考慮した年間のイベント計画(イルミネーション等の冬のイベント等)	○	○	閑散期に来園してもらえる年間イベントの計画を行う
記念イベントの実施(平成30年度は開園30周年)	○	○	開園〇〇周年記念イベント等特別感を持たせたイベントを実施する
安全・快適に観覧できる施設の整備			
獣舎等の施設の計画的な老朽化対策	○	○	計画的に老朽化対策を行う
アメニティ施設の整備	○	○	日陰、休憩施設や園内カート、売店等の整備を行う
雨天時の対策	○	○	室内でお弁当を食べる場所の確保及びそのことの学校等への情報発信等
トイレの整備・更新		○	入口部の新設、全体的なトイレ配置等の見直しを行う
危険木撤去等の樹木の維持管理(樹木診断含む)	○	○	危険木撤去等来園者の安全対策を行う
駐車場の拡張及び区画割の見直し	○		土日等に不足する駐車場の拡張及び区画割の見直しを行う
海外の動物園との連携			
海外の動物園からの動物の導入	○	○	動物の交換等により海外の動物園から動物を導入する
検疫施設やバックヤードの整備	○	○	検疫施設の整備やバックヤードの整備を行う
国際種情報システムなどを活用した個体情報の入手	○	○	動物の交換や譲渡等に活用する
動物の交換や繁殖に向けた共同研究や人的交流	○	○	積極的な共同研修や人的交流を行う
連携したイベント等の実施	○	○	海外の動物園と連携したイベント等を実施する
効果的な情報発信			
パノラマ展示の動物を見せる工夫等の現在ある魅力についてキーパー等の解説等による積極的な情報発信	○	○	キーパーの育成に努める
SNSの活用による来園者からの情報発信を行える環境整備	○		Wi-Fiの整備による来園者からの情報発信等。海外観光客のおもてなし。

動物と自然の関わりについて興味を抱かせる動物園の実現			
動物の生息環境整備			
動物の生息環境に合わせた展示施設の整備	○	○	生息環境に近づける展示施設整備等を行う
学習的・体験的な機能の充実			
動物との触れ合いコーナーや子供動物センターの充実	○	○	家畜等触れ合える動物の拡充や、癒し(アニマルセラピー等)などの様々な形態の触れ合いを実施。
学習館等の整備	○	○	博物館・学習館等の整備を行う
昆虫園等の整備	○	○	昆虫園等の整備を行う
バックヤードの見学	○	○	命の教育として飼育環境の見学
レクチャーシステムの導入	○	○	動物園見学の最初と最後にレクチャーする
学校と動物園の連携強化	○	○	小学校のカリキュラムへ動物見学を導入
子供動物園の運営に携わる職員、ボランティアの育成	○	○	運営が大切であり、携わる職員等の育成を行う
キーパーによる解説や解説版の設置による学習機能の充実	○	○	キーパーの育成及び解説版の充実を図る
体験型解説やセルフガイド等の整備	○	○	スタンプラリー・クイズラリー等の充実を図る
獣医体験	○	○	体験プログラムの開発を行う
VRやARなどのIT技術の活用	○	○	IT技術の活用
希少種の保存に向けた取り組み			
現在飼育している希少動物の繁殖	○	○	個体数の維持、種の保存に貢献する
在来動物の保護及び飼育展示	○	○	日本産、四国産の動物の保護及び飼育展示
愛媛県のレッドデータブックに載っている動物の保護及び飼育展示	○	○	保護し繁殖施設の整備による種の保存に努める
繁殖しやすい環境づくりの推進	○	○	動物病院等を充実させる
視点を考慮した施設の整備			
キーパー目線や子供目線での施設整備	○	○	キーパーや子供目線の施設整備を行う
視点(高い視点や水中目線等)を変えた施設整備	○	○	視点を変えた施設整備を行う
持続可能な動物園の実現			
資本の強化			
とべ動物園魅力向上基金、企業版ふるさと納税、動物サポーター制等の既存資本の充実・拡充	○	○	積極的にアピールする
新たな資本の導入検討	○	○	魅力的なクラウドファンディング等や個別施設のネーミングライツの導入を検討
民間活力の導入		○	多様な事業者に参加してもらい来園者サービスの向上を図る
持続可能な運営体制の構築			
職員(キーパー等)の人事交流	○	○	人材育成のため職員の他園等との人事交流を行う
スキルアップのための研修など組織的・計画的な人材育成	○	○	個人のスキルアップを図るとともに、組織としての実施体制を構築する。
ボランティア制度の整備	○	○	ボランティアガイドセンターの設置を検討
AI導入による効率的な運営やサービスの向上	○		システムの開発や情報の蓄積に努める
飼育動物の安定的な確保			
コレクションプランの策定	○		策定を行い計画的な種の保存を行う
動物の購入、繁殖、ブリーディングローンを計画的に推進	○	○	他の動物園との協力体制の強化を行う
広報・情報提供の充実			
コンセプトを設定した取り組みの統一(共通のロゴを使用)	○	○	統一コンセプトのもと事業を実施し訴求効果を高める
案内ガイドの充実	○	○	案内ガイドの充実にも努める
WEBやSNSを使用した情報発信の強化	○	○	わかりやすいインパクトのある情報発信に努める
キャラバン隊によるPR活動	○	○	集客施設や集客イベント等においてPR活動を実施する
出張講話や動物の出張などによる動物との触れ合い体験の実施	○	○	県内各所の小学校等へ出向き動物との触れ合い体験等を実施する
経営改善			
健全な経営状況を維持するため経費節減に努めるとともに、適切な管理運営に努める	○	○	運営計画の作成及び定期的な見直しにより経費節減に努める

4. 分野別計画

基本方針別に第1期に実施する事業は次のとおり。

【基本方針1】とべ動物園の強みを活かした（独自性のある）動物園の実現

○施策1 運動公園、えひめこどもの城と連携し共同イベントの開催

- ・とべ動物園は、年間で約65万人訪れる総合運動公園や約35万人訪れるえひめこどもの城に隣接しており、親子いきもの調査、食育セミナー、環境学習、イルミネーション等の共同でのイベントの開催や、それぞれの施設におけるイベントにおいて他の施設も訪れてもらうような仕掛けの検討を行う。

○施策2 とべの繁殖技術等を活かした希少種、絶滅危惧種の繁殖

- ・とべ動物園におけるアフリカゾウ等の優れた繁殖技術や、県獣であり前身の道後動物園において日本で唯一飼育していたニホンカワウソの飼育展示実績等を活かした希少種、絶滅危惧種の繁殖に努めるとともに、ニホンカワウソの生存を信じて情報収集に努める。

【基本方針2】人が集い活力のある動物園の実現

○施策3 海外からの観光客をターゲットとした取り組み

- ・近年増加している海外からの観光客をおもてなしするため、旅行会社への説明会を開催し、誘致するためのツアー等を企画してもらうとともに、動物園内の多言語表記等、受け入れ態勢の充実を図る。

○施策4 閑散期（冬場や雨の日等）の集客を考慮した年間のイベント計画

- ・イルミネーション等の冬のイベントを強化する等、閑散期（冬場や雨の日等）に来園してもらうことを考慮して年間を通じたイベントを実施する。
- ・イベントの実施に際しては、動物の生態を十分考慮し、悪影響を与えることがないよう実施する。

○施策5 記念イベントの実施

- ・開園〇〇周年記念イベントや、動物ごとの記念イベント等、特別感を持たせたイベントを忘れず実施し、集客を図る。
- ・記念イベントは動物たちにも満足してもらえるよう動物たちが喜ぶ内容を実施する。

○施策6 獣舎等の施設の計画的な老朽化対策

- ・開園後30年が経過し、獣舎等の施設の老朽化が進んでおり、外見的なイメージダウンが最小限となるように計画的な老朽化対策を行う。

○施策7 アメニティ施設の整備

- ・夏の暑さ対策はリピーターを増やす重要な要素であり、日陰で休憩できるスペースの拡充に努め、軽食等手軽に行えるように整備する。また遠足などの大人

数の休憩スペースの確保や、各獣舎付近で座ってじっくり観察できる施設の整備を行い、快適性を向上することにより滞在時間を長くする。

○施策 8 駐車場の拡張

- ・土日等に駐車場が不足する場合があります、駐車可能台数を増やす必要があるため、駐車場の拡張及び区画割の見直しを行う。

○施策 9 海外の動物園からの動物の導入

- ・費用面や血統管理の面において有効であるため、海外の動物園と連携し、動物の交換等により動物を導入する。

○施策 10 SNSの活用による来園者からの情報発信を行える環境整備

- ・動物園ならではの写真が撮影できる場所等の提供（レストラン、夕焼けのきれいな展望等）により、整備したえひめ Free Wi-Fi を活用し、来園者に魅力的な動物園の情報を発信してもらう。
- ・動物と近づいてツーショット写真を撮れることは、動物園に行きたいと思わせる重要な要素であり、どうしたらそれができるかについて取り組む。

【基本方針 3】動物と自然の関わりについて興味を抱かせる動物園の実現

○施策 11 動物の生息環境に合わせた展示施設の整備

- ・施設整備を行う際には生息地の植物と一体的に整備する等動物が生息している自然環境をできるだけ再現し、動物本来の生き生きとした行動を引き出す。

○施策 12 動物との触れ合いコーナーや子供動物センターの充実

- ・動物と触れ合うことが大切であり、また、触れ合いを求めて来園する人もいるため、動物との触れ合いコーナーや子供動物センターの充実を図り、バーチャルではない本物を感じてもらい体験や癒し（アニマルセラピー等）などの様々な形態の触れ合いを通じた学習的・体験的な機能を充実させる。

○施策 13 学習館等の整備

- ・動物園が持つべき教育機能を充実させ、死蔵となっているニホンカワウソの貴重な資料を公開展示することは、県獣で動物園のシンボルマークともなっており、日本で唯一飼育実績のあるとべ動物園の使命である。
- ・ニホンカワウソをテーマにした学習施設の整備を行い、建物の名称については、来園者に愛着を持ってもらえるような名称を募集する。

○施策 14 キーパーによる解説や解説板の設置による学習機能の充実

- ・キーパーによる積極的な来園者への解説や、解説版の増設等により、学習機能を充実させる。

○施策 15 現在飼育している希少動物の繁殖

- ・ 現在飼育している希少動物の個体数を維持し、種の保存に貢献する。

○施策 16 在来動物の保護及び飼育展示

- ・ 日本産、四国産の動物の保護及び飼育展示を通じて、身近な地元の動物に目を向けてもらうよう環境学習を行う。

○施策 17 繁殖しやすい環境づくりの推進

- ・ 研究機関や保護団体等と連携し、繁殖しやすい環境整備を行う。また、医療器具を購入する等、動物病院等を充実させる。

○施策 18 キーパー目線や子供目線での施設整備

- ・ 働いているキーパーが面白いと感じる施設や、子供が見やすい施設整備を実施する。

○施策 19 視点（高い視点や水中目線等）を変えた施設整備

- ・ 視点を変えることにより、動物の様々な生態に気づき、より興味関心を持ってもらうことができるように施設整備を行う。

【基本方針 4】持続可能な動物園の実現

○施策 20 新たな資本の導入検討

- ・ 施設整備や動物の導入について、インターネットを活用して個人等から資金を調達する魅力的なクラウドファンディング等の導入を検討する。

○施策 21 組織的・計画的な人材育成

- ・ 人材育成のため、外部研修に積極的に参加したり、計画的に内部研修を行う等個人のスキルアップを図るとともに、組織としての実施体制を再構築するなど、組織的・計画的な人材育成に努める。

○施策 22 ボランティア制度の整備

- ・ 来園者へのガイドにボランティアを活用する等、ボランティアの受け入れ体制や研修についてボランティアガイドセンターを設置する。

○施策 23 A I 導入による効率的な運営やサービスの向上

- ・ A I 導入により来園者情報や来園者の動線を把握する等効率的な運営やサービスの向上に努める。

○施策 24 コレクションプランの策定

- ・ コレクションプランの策定により、計画的に種の保存を行う。

○施策 25 動物の購入、繁殖、ブリーディングローンを計画的に推進

- ・ 動物の寿命を考慮して、他園と連携し動物の購入、繁殖、ブリーディングロー

ンを計画的に推進する。

○施策 26 統一コンセプトに沿った事業展開（共通のロゴ使用など）

- ・統一コンセプトに沿った事業展開により、発信する情報の訴求力を高めながら、とべ動物園の魅力向上につなげる。

○施策 27 WEBやSNSを使用した情報発信の強化

- ・WEBやSNSなどを使用した情報発信について、情報の拡散を目指し、わかりやすいインパクトのある情報発信に努める。
- ・ビーコンをそれぞれの動物舎に設置し、個人のスマートフォンにプッシュ型の情報発信を行うことで、動物の一般的な解説の他、とべ動物園の個体の特徴も含めて紹介する。

○施策 28 健全な経営状況を維持するため経費節減に努めるとともに、適切な管理運営に努める

- ・運営計画を作成し、定期的に内容をチェックし見直しを行う。

5. ソフト・ハード別施策

①ソフト施策

[イベント]

- | | | |
|--------------|----------|---|
| ・グランピング | (施策 4、5) | |
| ・イルミネーション | (施策 1、4) | |
| ・秋の読書週間とのコラボ | (施策 4) | |
| ・句会 | (施策 4) | |
| ・セグウェイツアー | (施策 4) | |
| ・ニホンカワウソサミット | (施策 4) | 等 |

[広告宣伝]

- | | | |
|------------|---------|---|
| ・PR動画作成 | (施策 5) | |
| ・インターネット広告 | (施策 27) | |
| ・情報プッシュ配信 | (施策 27) | |
| ・デジタルサイネージ | (施策 27) | 等 |

②ハード施策

[施設整備]

(選定方針)

- ・ 報告書において短期に実施することとしている施設の中から獣舎、教育施設毎に半分を選定。
- ・ 短期に実施する予定の6つの施設の中から優先度を考慮しながら整備する。
- ・ 動物の導入状況や流行などに応じて、毎年、獣舎の追加や優先順位の見直しを行う。

(優先度)

施設名			サル・ヒヒ舎	日本(四国)固有種の動物舎	クマ舎	アシカ舎	ニホンカワウソ館	ふれあい施設
整備概要			・獣舎の高さを高くし、生息環境を再現することにより、動物の動きを引き出す施設 ・広場側には、ガラス張りの室内展示・寝室を整備 ・外側には、高さを確保した観覧用のウッドデッキを設置 ・ワオキツネザル舎は、獣舎内を散策可能な施設	(新設) ・ニホンカモシカなど、日本固有種の動物を混合飼育 ・施設をケージで囲い、その中に小川や樹木を整備し、里山の環境を復元 ・遊歩道を設置し、獣舎内を散策しながら観察できる施設	・檻からガラス展示に変更し、近接して観察できる施設 ・マレーグマ舎は、暖房設備等を整備したり、土のグラウンドや樹木を整備したりする等飼育環境を改善	・アクリルを利用した展示で、水中を動き回る姿が見られる施設 ・人気のペンギン舎に隣接しており、相乗効果でエリアとしての魅力向上が期待できる。	・こども動物センターを改築して、広い展示室や資料室、レクチャールームを整備 ・世界で唯一飼育実績のあるニホンカワウソの貴重な資料を提示 ・ソフトとハードの両面でニホンカワウソの聖地化を図る	(新設) ・ポニー等の乗馬ができる屋外施設を整備 ・天候に左右されず、小動物とふれあえる屋内施設を整備 ・モルモットの成長過程を展示 ・カフェや休憩所の整備
報告書	評価項目	レクリエーション					○	○
		教育	○	○	○	○	○	○
		繁殖		○	○	○	○	
		調査研究	○	○	○	○	○	
		動物福祉	○	○	○	○		○
		老朽化	○		○	○	○	
行動計画	ニュース化		○	○	○	○	○	○
	ターゲット	若者	○			○		○
		外国人		○				○
近隣における新規性			○	○		○	○	
人気(アンケート)			○			○		
整備の優先度			○	○	△	◎	△	△
備考					・マレーグマはBLにより搬入した若い個体が繁殖適齢期。	・アシカは若い個体が複数おり繁殖が期待できる。		整備先としている遊具跡地は、各獣舎改修時の仮獣舎スペースとして使用予定

アシカ舎改修		(施策 6、11、18、19)
概要	・水中を動き回る姿を見ることができる、アクリルを利用した展示施設を整備する。 ・現在のような上部からの餌やり体験は人気があり、その機能は残す。 ・動物園の入口に近い位置にあり、来園者に見てもらえる好条件の場所である。 ・人気のあるペンギン舎との相乗効果により人気のスポットとなる。	
整備方針	○全国的に人気の施設 ペンギン舎のように、アクリルを効果的に利用し、水中で自在に動き回る姿を横や下から見える施設は全国的に人気であり、清涼感を与えるとともに、生き生きとした動きを見せることにより、長い時間見ていても、また何度来ても飽きが来ないようにする。また、人気のペンギン舎のすぐ近くであり、エリアとしての相乗効果も期待できる。 ○フォトジェニックな施設 間近に動物の写真が撮れたり、動物と一緒に写真が撮れたりするとともに、SNS 等による拡散も期待できる。 ○繁殖の期待 H30 年 3 月に BL により繁殖したメスを搬入する等若い個体が複数おり、今後も繁殖が期待できるため、人気のスポットにすることができる。	

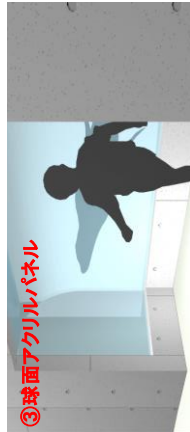
【基本コンセプト】

- ★魅せる・・・アシカ本来の姿（動き、しぐさ）を見せる。
- ★楽しむ・・・見て楽しむ、触れ合って楽しむ、一緒に楽しむ。
- ★感じる・・・アシカを身近に（目で、耳で、手で）感じる。

魅せる



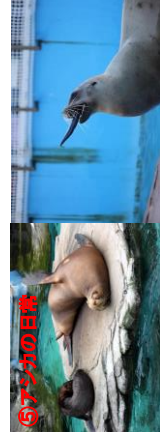
- ・アシカの横方向の動き、水中から水面への縦方向の動きを見せる。
- ・泳ぐアシカと一緒に散歩している雰囲気を感じられる。



- ・来園者がアシカと一緒に水中にいるように錯覚させながら水中のアシカの動きを見せる。

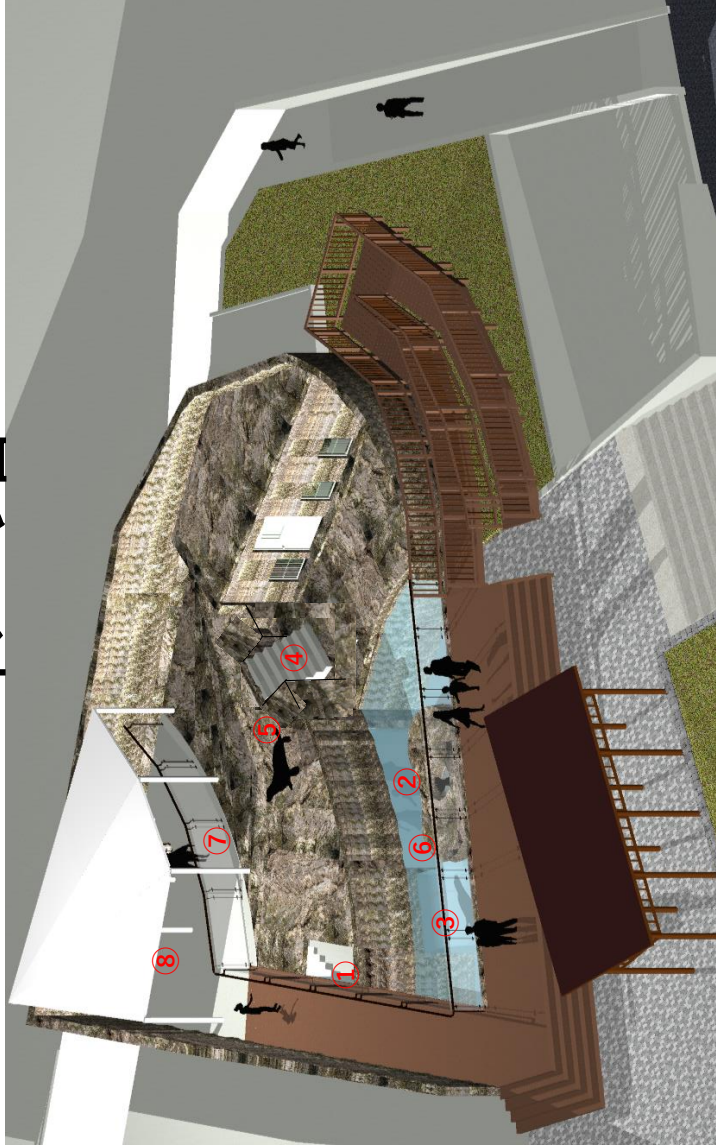


- ・階段の上り下りを観察することで、陸上での動きの速いアシカの器用な一面を見せる。



- ・陸上でののんびりした寝姿や、餌を食べるところなど日常の姿を見せる。

イメージ図



感じる

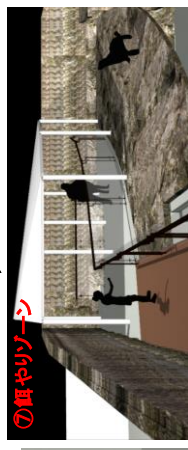


- ・コミュニケーションの手段としてよく鳴き、普段聞くことのできない水中での鳴き声を陸上での鳴き声と比較できる。



- ・上手な泳ぎや、水中での食事姿を間近に観察し目で感じてもらう。
- ・非常に頭がよく、好奇心旺盛で人間にも興味をもつて近づいてくるので、アシカとにらめっこができる。

楽しむ



- ・アシカの餌やりを間近で見楽しむ。



- ・アシカと一緒に楽しむ。

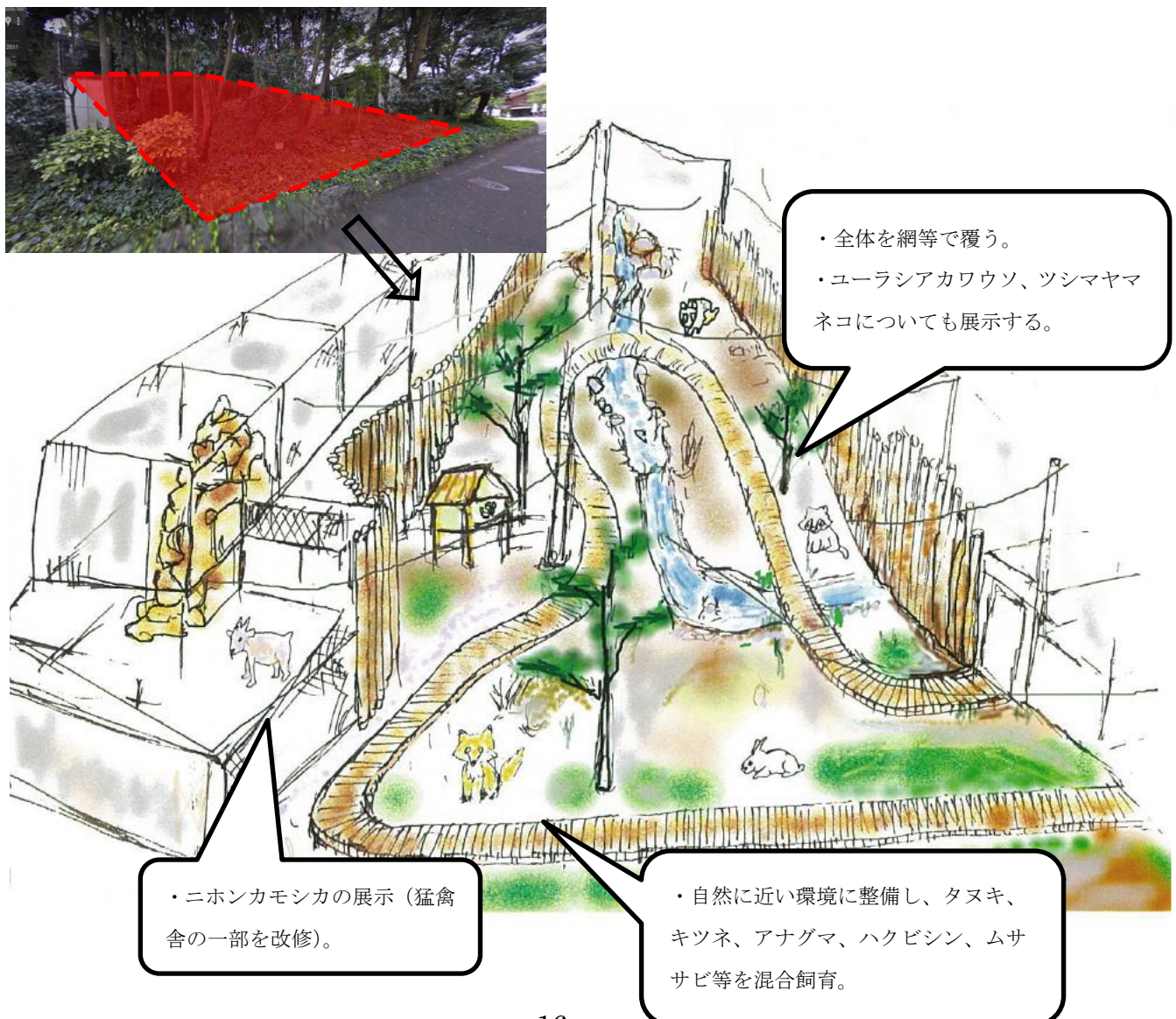


- ・アシカの生態を見て、学んで楽しむ。
- ・水中での新しいビューポイントを踏まえ、今までは視点を変えたガイドを実施。

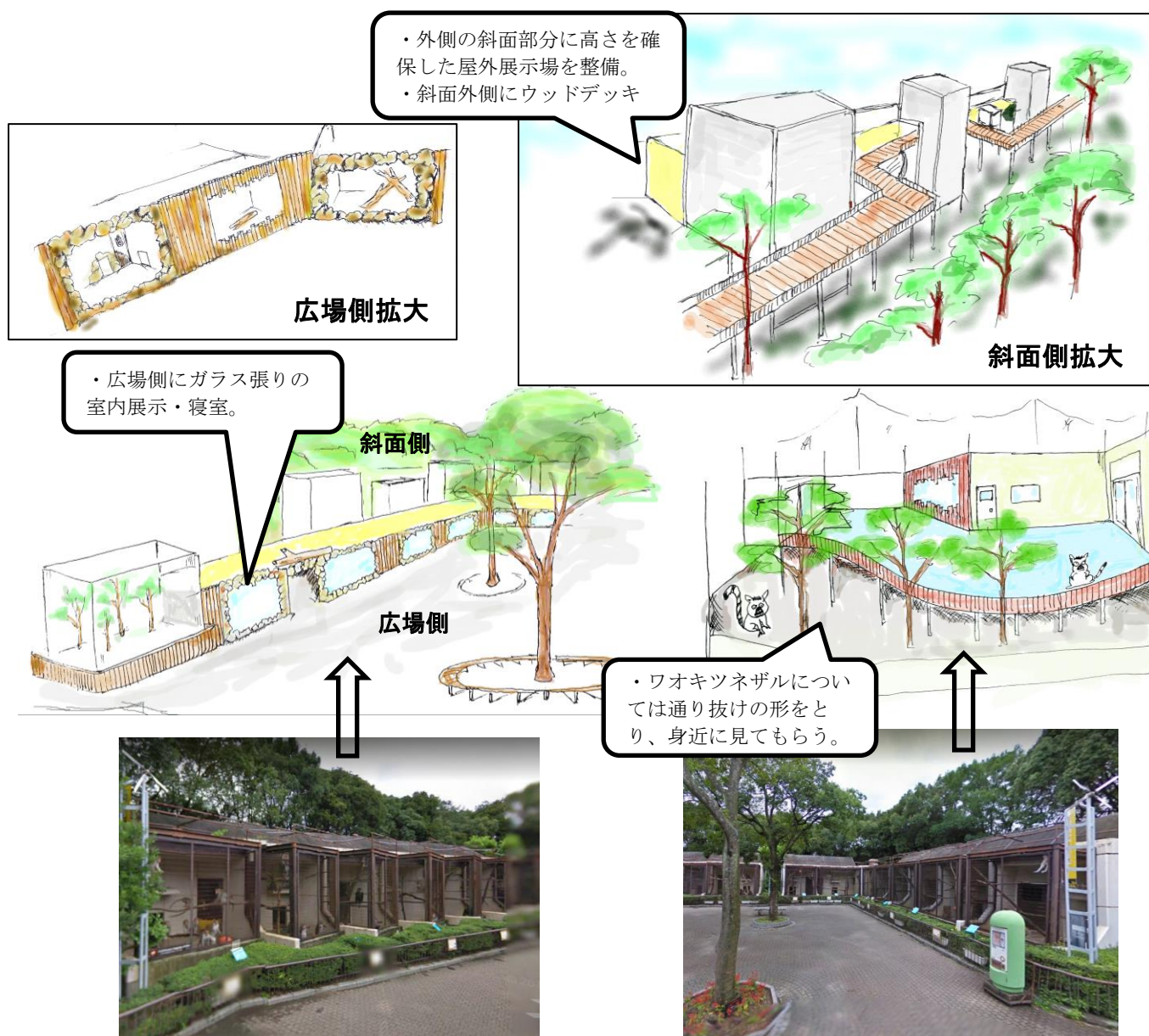


- ・夜の動物園等でライトアップを行い、幻想的な雰囲気を楽しむ。

日本（四国）固有種の動物舎（仮）新設（施策 11、16、18、19）	
概要	・ニホンカモシカ等の日本（四国）固有種の動物について保護し展示する施設を整備する。（地域の動物は地域で守る） ・知っているようで知らない、地元の動物の生態にあらためて目を向けてもらい来園者の気づきを促し、愛着を持ってもらう。 ・施設をケージで囲い、その中に小川や樹木を整備し、里山の環境を復元した中で、固有種の動物を混合飼育する。 ・遊歩道を整備し、通り抜けできるようにする。
整備方針	○全国的に人気の施設 柵なしで動物を間近に観察できる施設は全国的に人気で、動物が暮らしている世界に足を踏み入れたかのような感覚になり、動物との触れ合いに近い体験ができる。『生きているミュージアム ニフレル』（大阪府）では、柵がなく、小動物が自由に動き回る施設が人気。 ○フォトジェニックな施設 間近に動物の写真が撮れたり、動物と一緒に写真が撮れたりするとともに、SNS 等による拡散も期待できる。 ○環境教育に資する施設 里山の環境を復元し、そこに生息している固有種の動物を混合飼育することにより、身近な動物への興味を促すとともに、人間と動物の関係性、環境の変化による動物生態への影響、開発と保全のバランス等について考えさせることができる。



サル・ヒヒ舎改修		(施策 2、6、11、18、19)
概要	・サル・ヒヒは種類が多く、来園者アンケートによると人気のある動物の一つであり、旧態依然とした高さの低い檻による長屋構造を解消して開放的な獣舎にすることにより、生き生きとした動きを引き出し、人気エリアの更なる魅力向上を図る。 ・獣舎の高さを高くし、その外側斜面に観覧用のウッドデッキを設置する。 ・広場側には、ガラス張りの室内展示・寝室を整備する。 ・ワオキツネザルについては、獣舎内を散策可能な施設とする。	
整備方針	○展示の工夫 展示室の空間を広く取り、回遊性を持たせた不規則な配置により、見る人が散策、探検できる楽しみのある施設とする。また、生息環境の違いがわかる見せ方（サルは樹木、ヒヒは擬岩等）をすることにより、各個体の違いを際立たせ、ゆっくり見て回れるようにして、観覧者を滞留させる。また、室内展示場の整備により冬場も見られるようになる。 ○飼育環境の改善 種を絞ることで飼育スペースを確保し過密状態を解消し、また、より生息域に近い環境を再現し、生き生きとした動きを引き出す。その結果として繁殖の期待が高まる。	



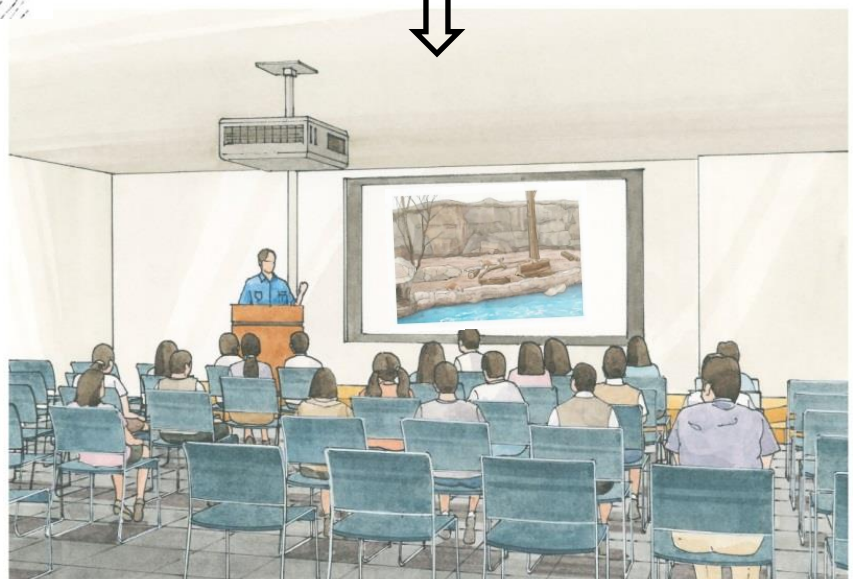
クマ舎改修		(施策2、6、11、18、19)
概要	・しろくまピース以外のマレーグマなどの生き生きとした姿を見せることにより、ベアストリートのエリアとしてイメージアップを図り、しろくまピースの人気を更に高める。 ・来園者等からの要望が強い、現在の旧態依然とした檻による長屋構造をガラス展示に変更する。人止め柵がなくなり、獣舎を拡張できる。 ・マレーグマは、ブリーディングローンにより搬入した若い個体が繁殖適齢期を迎えており、繁殖を図るためには施設の改修が必要。	
整備方針	○展示の工夫 現在の旧態依然とした檻による長屋構造をガラス展示に変えることにより、近接して観察することができるとともに、ガラス越しに手を合せたり、視線を合わせたりすることもでき、また、ツーショット写真を撮ることもできる。 ○繁殖の期待 マレーグマについて暖房設備を整えたり、土のグランドや樹木を整備したりする等、飼育環境を改善させ、より生息域に近い環境を再現することにより、繁殖の期待が高まる。	



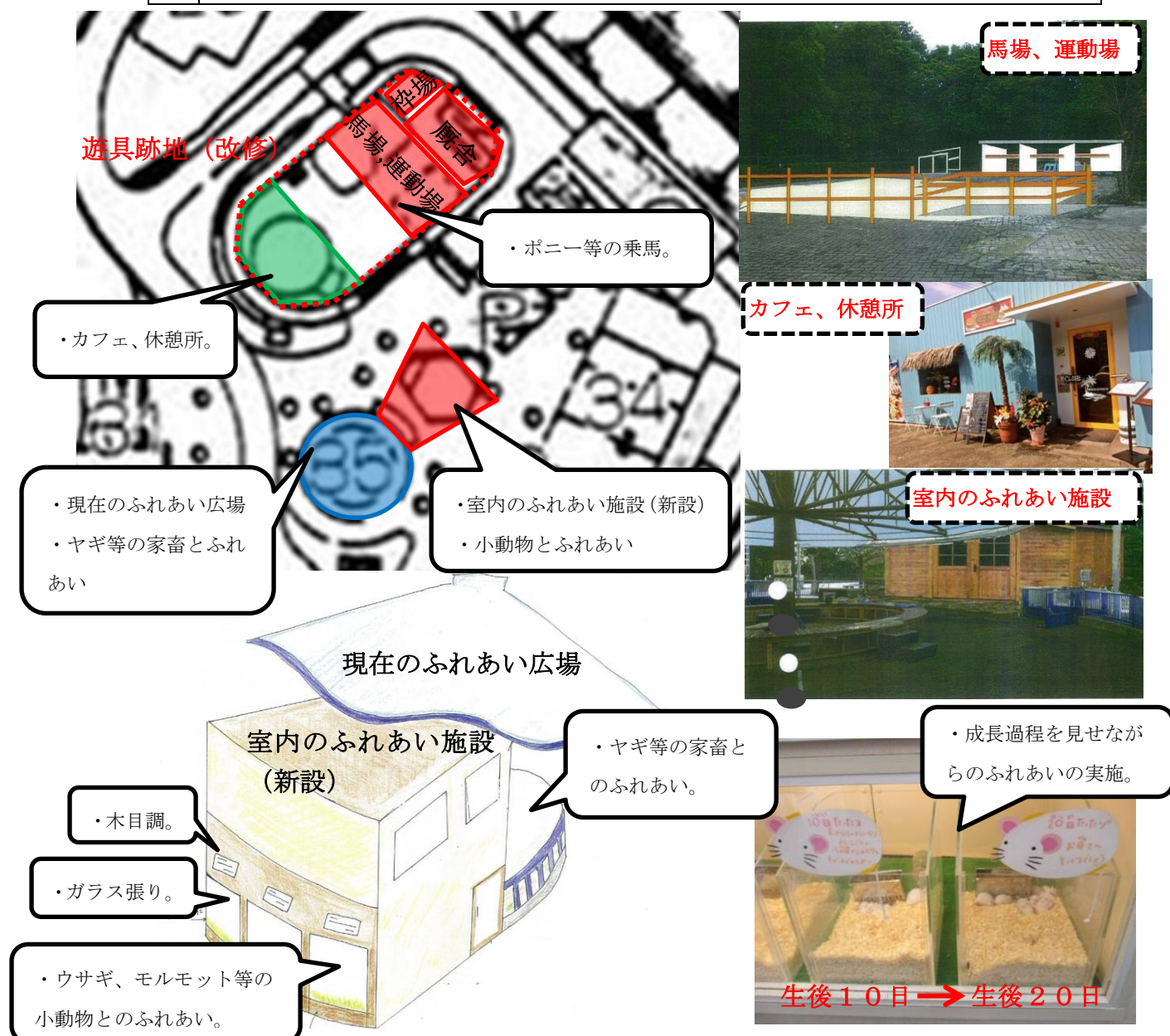
〔イメージ〕



ニホンカワウソ館（仮）整備（施策 13）	
概要	・ニホンカワウソは、愛媛県の県獣であり、とべ動物園のシンボルマークともなっている。また、とべ動物園は世界で唯一ニホンカワウソを飼育した実績があり、飼育時の貴重な資料を保管している。これらを県民に提示し、伝えていくことはとべ動物園の使命である。 ・学習機能を有し、ニホンカワウソの資料を一部展示していることも動物センターを改築して広い展示場、資料室やレクチャールームを整備する。
整備方針	○ニホンカワウソの聖地化 とべ動物園では、ニホンカワウソに特化した施策として、今後、ニホンカワウソサミット（学術的な会合、ニホンカワウソをまちづくりに活用している自治体の交流等）の開催や、ニホンカワウソに関する動画作成などを検討することとしており、ソフトとハード両面で、とべ動物園をニホンカワウソの聖地にしたいと考えている。また、県内のニホンカワウソの関連施設と連携して、ニホンカワウソの聖地巡りを計画しており、そのゲートウェイとしての拠点になりうる。 ○環境教育 昔は身近に生息していたニホンカワウソが、なぜこれほど激減したのか、その激減に人間の生活がどのように関与したのか、これから我々はどうすればよいのか、等を考えさせることができる。また、雨の日でも利用できる施設である。



ふれあい施設拡充		(施策 11、12)
概要	- 動物と触れ合うことが大切であり、また、触れ合いを求めて来園する人もいるため、触れ合い機能の拡充を図る。 - 天候によりふれあいを中止することがないよう、来園者のニーズに応えられるよう室内のふれあい施設を整備する。	
整備方針	○動物や来園者に優しいふれあい 動物福祉の観点（動物の低温及び高温ストレスを避ける）及び来園者の満足度向上のため、室内でもふれあいが行える施設の整備を行う。これにより、天候に左右されない、安全で確実な動物との触れ合いを行うことができる。また、ふれあい施設及び園内各所に日陰で休憩できるスペースの整備や暑さ対策設備等の導入を図る。 ○ふれあい機能の拡充 室内では小動物と、現在のふれあい広場ではヤギ等の家畜と触れ合いを行い、遊具跡地においてはポニーの乗馬ができるようにする。 ○教育的な視点を踏まえたふれあい 小動物については、モルモットの成長の過程を見せながらのふれあい等教育的な視点も取り入れたふれあいとする。	



[観覧環境整備]

◎園内の多言語表記	(施策 3)
◎休憩施設整備	(施策 7)
◎インスタポイント	(施策 10)
◎ミスト散布施設	(施策 7)
◎水遊び場	(施策 7)
◎ウォータースライダー	(施策 7)
◎駐車場の拡張	(施策 8)
◎解説版の増設 等	(施策 14)

[その他]

◎動物の導入	(施策 2、9、15、24、25)
◎医療器具の購入	(施策 17)
◎新たな資本の導入検討	(施策 20)
◎人材育成（外部・内部研修）	(施策 21)
◎ボランティア制度の整備	(施策 22)
◎A I 導入	(施策 23)
◎適切な管理運営（運営計画の定期的な見直し） 等	(施策 28)

行動計画(第1期)施設整備位置図



6. 年次計画

()書きは施策番号

	令和元年度												令和2年度												令和3年度																							
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3												
全体	導入期(とべ動物園の全国的な知名度向上)																																															
	魅力的なイベントや情報発信によるニュース化 魅力的な施設オープンによるニュース化																																															
ソフト事業	句会(4)												グランピング(4),(5)												イルミネーション(①④)																							
	秋の読書週間とのコラボ(4)												年間を通した魅力的なイベントの継続実施(4)																																			
	PR動画作成(5)												統一コンセプトに沿った情報発信(26)																																			
	インターネット広告(⑦)												情報プッシュ配信(⑦)																																			
ハード事業	(工事)												アシカ舎改修(6⑪⑬⑲)												(設計)																							
	※選定した6つの施設の中から、整備優先度 や飼育動物の導入計画等に配慮して整備												(設計)												(工事)																							
	インスタポイント(⑩)												園内の多言語表記(3)												休憩施設・ミスト散布施設整備(⑦)																							
																									水遊び場・ウォータースライダー(⑦)																							
動物導入等													動物の導入(2⑨⑮⑳㉕)																																			
													医療器具の購入(⑰)																																			
その他													新たな資本の導入(20)																																			
	ボランティア制度の整備(㉒)												人材育成(㉑)																																			
													AI導入(㉓)												適切な管理運営(㉘)																							